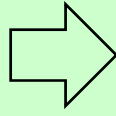


水稲主体からブロッコリー主体への経営転換

経営体の概要

事業実施前(H8)

基幹作物:水稲、ブロッコリー、なす
経営面積:3.1ha(うち水稲2.4ha)



事業実施後(H19)

基幹作物:水稲、ブロッコリー、水菜
経営面積:3.3ha(うち水稲1.9ha)

取組の経緯と営農転換のポイント等

事業の実施により、ほ場の排水性が向上したことなどによって、水稲主体からブロッコリーを主体とする経営へと転換し、所得は事業実施前の約1.5倍に向上している。

また、安心・安全な米を消費者に届けるため、減農薬と有機質肥料を主体とした米づくりに取り組んでいる。

営農改善のポイント

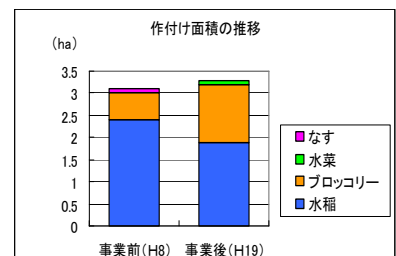
①作物の変化

水稲の作付けを2.4haから1.8haへと減らし、ブロッコリーの作付けを0.6haから1.3haへと拡大するとともに、なす(0.1ha)の作付けをやめ水菜(0.1ha)を導入するなど、所得の向上を図っている。

ブロッコリーは市場での取引価格が高いため、契約栽培を行わず、全て市場出荷している。



ブロッコリーの作付状況



②機械・施設の整備

ブロッコリーの定植機の導入により、従前の手植えより作業時間は約半分に縮減されている。また、セル苗作りに取り組むことにより、更なる効率化を図っている。

用途に応じたトラクターを複数台所有する事により、作業時間の縮減が図られている。

③栽培技術の確立・向上

稲作組合の役員を務め、減農薬、有機質肥料の使用などによる、安心・安全な米づくりの推進に努めている。



水菜の作付状況

事業概要

事業種:国営総合農地防災事業

関係市町:京都市・宇治市・久世郡久御山町

受益面積:1,310ha

事業期間:平成9年～平成18年

事業目的:排水改良

主要工事:排水機場の改修(計画排水能力 80m³/s)

位置図(京都府)



巨椋池地区

<問い合わせ先>

近畿農政局 農村計画部

資源課 営農担当

電話:075-451-9161

(内線:2452)

(平成20年調査時点)